

教科・科目	現代社会	2単位	対象学年・組	1学年（全クラス）
教科書	帝国書院『新現代社会』	教科担任	浅川	

1 目 標

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う（高等学校学習指導要領「公民」）。

2 学習の到達目標

物事を多面的、多角的に分析し、広い視野から社会を分析し、将来的な「公民」として社会で活躍できる生徒を育成することを到達目標とする。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	第1編 「現代社会の諸課題」 環境、生命、情報	6	「幸福・正義・公正」の考え方を理解し、次編以降の枠組みを形成する。	導入編として、身近なテーマから高等学校の学習に興味を持てるように工夫する。
	第2編 第1章 「青年期の意義」 第2章 「民主政治の基本原則と日本国憲法」、「日本の政治機構と政治参加」	12	・青年期について扱い、先哲の考え方をもとに、自身の今後の在り方生き方を考察する。 ・日本の統治機構の仕組みについて、関連する経済分野の学習分野も合わせて学習する（例：日本国憲法の基本的人権と労働問題）。	・青年期を扱う際には、自身の在り方だけでなく、多文化共生の観点や我が国の伝統、文化尊重の観点からも学習させる。 ・日本の統治機構について学習させる際には、政治分野だけでなく経済分野も関係させて学習する。
二 学 期	第3章 「市場経済のしくみ」、 「豊かな社会の実現をめざして」	32	・経済活動と市場経済の仕組み。 ・経済分野各論（企業、金融、財政と租税等） ・労働問題と社会保障 ・消費者教育	・経済分野の取り扱いについては現実社会と関連させて学習させる。また、第1編で学習した「幸福・正義・公正」の観点をを用いて学習する。
三 学 期	第4章 「現代の国際社会の日本の役割」	20	・戦後国際政治史 ・国連の役割と国際社会 ・国際経済のしくみ ・グローバル化経済の進展と南牧問題	・国際政治及び経済分野については生徒と縁遠い内容であることを考慮し、授業形態を工夫したり、身近に感じることが出来る題材を扱うものとする。

4 学習方法と生徒への注意

現代社会は“答えのない問いを、多面的・多角的に考察しながら自らの答えを導き出す”科目です。常に現代社会の出来事に興味を持つようにしましょう。

5 評価の観点・方法

確認テスト（50%）、授業態度・提出物・プレゼンテーション等（50%）

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○	○	○	○		○		○

教科・科目	地理A	2単位	対象学年・組	2学年
教科書	東京書籍 地理A	教科担任	菊池	

1 目 標

- 基本的な地理知識を知る
- 世界の人々の生活と文化を知る
- 国際理解の基礎知識を学ぶ

2 学習の到達目標

- 作図作業を通し身近な地域の自然環境を知る。
- 日本及び世界のおもな国や都市の名称と位置を地図で理解する。
- 世界の自然環境や産業、地域が抱える諸問題を把握する。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	地理の基礎知識 日本の都道府県 世界のおもな国々	18	日本及び世界の都道府県、国名、都市名などを地図を通し位置を理解する。	講義や教科書の文章説明だけでなく、地図帳を見る、教科書の写真を見る、DVD視聴する、白地図作業を行うなど多角的に展開する。
二学期	球面で世界を考える 自然環境の概要 世界の民族の生活と文化	32	地球環境の進化を理解する。地域ごとの文化の多様性を理解する。	講義や教科書の文章説明だけでなく、地図帳を見る、教科書の写真を見る、DVD視聴する、白地図作業を行うなど多角的に展開する。
三学期	人口問題 資源・エネルギー問題 世界の環境問題	20	現代社会の諸問題を理解する。 21世紀の地球規模の課題を知る。	講義や教科書の文章説明だけでなく、地図帳を見る、教科書の写真を見る、DVD視聴する、白地図作業を行うなど多角的に展開する。

4 学習方法と生徒への注意

- 教材は教科書「地理A」（東京書籍）及び地図帳「地歴高等地図」（帝国書院）を使用する。
- 授業は基本的に講義形式で行うが、必要に応じてDVDやICT機器など視聴覚教材を利用する。
- 日々の授業の確認や中学時の復習も兼ねて小テストを数回行う。
- 生徒は講義に集中し、講義を静聴すると共に必要に応じてノートの記事、その他作業を行う。

5 評価の観点・方法

- 確認テストや日々のプリントの提出状況などから総合的に評価する。
- 授業中の態度について、積極的な発言などは評価する。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技術	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○							○

教科・科目	地理歴史・世界史A 必修	2単位	対象学年・組	2学年 1～6組
教科書	帝国書院 世界史A	教科担任	望月	

1 目 標

- ・世界史に関する関心を高め、意欲的に学習に取り組むようになる
- ・世界史に関する基礎的な事項を系統的に理解することができる。
- ・世界史の学習を通して、考え方の多様性や違いを包容する心を身につける。

2 学習の到達目標

- ・16世紀の世界システム完成から西欧各国の近代化までの流れを大まかに理解する。
- ・時代や社会の動き・地理的条件が各国の近代化にどのような影響を与えるのかを理解する。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	・ヨーロッパで花開く 個性と自由  ・宗教改革	18	・ヨーロッパの思想・文化の大転換はイスラームや中国文明の影響によるものであることを理解する。	・16世紀から授業が始まる点に留意し、生徒の地理的知識や中世の知識の不足を図版や史料、ICT教材を用いて補いながら、生徒の理解を促す。
二 学 期	・大航海時代の始まり ・ヨーロッパとアメリカの諸革命	32	・大航海時代によってヨーロッパにもたらされた社会的影響がヨーロッパ内での社会変動につながることを理解する。	・経済変動が世界システムの形成によって初めて誕生し、社会思想・文化・政治の改革につながったことを具体的に音楽や史料などICT機器も用いた指導を行う。
三 学 期	・自由主義・ナショナリズムの進展	20	・帝国主義を背景にヨーロッパ諸国が近代化を進めてきたことを理解する。また、我国の歴史への影響を理解する一助とする。	・「なぜ」「どうやって」近代化がなされたのかを各国の類型化を行うことで理解しやすくする。また、指導者の日記など資料を使用するなど生徒の関心を高める授業を行う。

4 学習方法と生徒への注意

- ・生徒との問答のなかで答えを導き出せるような指導を行いたい。
- ・調べ方・表現方法次第で読み手の理解や関心がどう深まるかを生徒自身が主体的に考えるような課題を貸す予定である。
- ・授業の受け方一つひとつが社会での態度形成への第一歩であると捉え、授業規律の確立に努めたい。

5 評価の観点・方法

確認テストのほかに授業中の態度や提出物など様々な観点から総合的に評価する。(人に伝わる表現力……ノート・レポート提出など、授業で出された課題を解き明かそうとする主体的な態度……出席・授業態度など、自ら考えて資料を活用して調べようとする力……課題レポートなど)

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的 技能	思考力・判 断力	課題発見 力・解決力	生涯学習 力	表 現 力	技能技術 力	読 解 力	鑑賞する 力	資料活用 する技能
○		○	○	○	○				○

教科・科目	日本史A 必修	2単位	対象学年・組	3学年
教科書	日本史A 人・くらし・未来 (第一学習社)	教科担任	山本	

1 目 標

- ・ 近現代を中心とする日本の歴史を世界の歴史と関連付けながら理解させ、歴史的思考力を養い、現代の問題にも対応できる能力を身につける。

2 学習の到達目標

- ・ 近現代を中心とする日本の歴史を世界との関わりの中で大観することができる。また歴史から自分の未来を考えようとするすることができる。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	明治維新と近代国家の形成 国際関係の推移と近代産業の成立	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ せまってくる外国船</li> <li>・ 黒船がやって来た</li> <li>・ 江戸が東京になった</li> <li>・ 清国との対立が深まった</li> <li>・ ロシアとの対立を深めていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近代日本の出発点を、世界の動きと関連つけて理解させる。</li> <li>・ 日本の近代化の過程を政治・経済・社会・対外関係から理解させる。</li> </ul>
二学期	政党政治の展開と大衆文化の形成 第二次世界大戦と日本	32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初の世界大戦に日本も参戦した</li> <li>・ 成金の時代がやってきた</li> <li>・ 恐慌の嵐が吹きあれる</li> <li>・ アメリカとの戦争がはじまった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大正デモクラシーと民衆の教育力の向上とを関連つけて理解させる。</li> <li>・ 軍部の台頭、戦争への過程を政治・経済・国際関係と関連つけて理解させる。</li> </ul>
三学期	戦後の政治と社会 経済国家としての発展	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 占領軍がやってきた</li> <li>・ 日本が生まれかわる</li> <li>・ 平和への願いが叫ばれた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後史や日本の経済繁栄また、戦後の国際情勢の変化について理解させる。</li> </ul>

4 学習方法と生徒への注意

・ 歴史に興味・関心を持ち、大まかな流れをつかむことができるようになってもらいたいと思います。またその時代を動かした人物の気持ちを考えることで、歴史から自分の未来を考えるきっかけとなるよう深く考えて欲しいと願っています。

5 評価の観点・方法

・ 近現代史についての流れを把握し、基礎的・基本的な知識や概念を理解しているか。また歴史の大まかな流れを把握し、表現することができるか。  
 ・ 4回の確認テスト及び提出物やレポートなどに加え、授業への取り組み、出席状況、課題の提出などの平常点を加え、総合的に判断する。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○							

教科・科目	政治・経済	2単位	対象学年・組	3学年
教科書	最新政治・経済 新訂版 実況出版	教科担任	目崎	

1 目標

- ・広い視野に立って、社会や人間について関心をもち、自分の意見を発信することができる。
- ・現代社会の基本的な問題について、主体的に考え、公正に判断することができる。
- ・課題に取り組む方法を学び、主体的に課題を追究することができる。

2 学習の到達目標

- ・経済についての基本的な仕組みを理解し、自らの考えで意見を述べるができる。
- ・民主政治の基本原則について理解し、主体的に課題を追究することができる。
- ・国際社会に生きる日本人として、自らに何ができるかを考え、行動することができる。

3 学習内容と学習上の留意点

	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
一学期	民主政治の基本原則と日本国憲法	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主主義って何だろう</li> <li>・政治の原理について。</li> <li>・私たちの生活における幸福と公正と正義について考える（対立の調整を例に）</li> <li>・最低限度の生活って？</li> <li>・地方自治について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解する。</li> <li>・民主社会に主体的に生きる個人として、よりよい社会にしていこうとする努力が大切であることを理解する</li> </ul>
二学期	経済社会の変容と経済のしくみ	32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年法を考えてみよう</li> <li>・経済学って何だろう？</li> <li>・物の値段は誰が決めるのだろうか？</li> <li>・株式会社について考えよう</li> <li>・銀行のお金はどこにいくだろうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済主体としての個人や企業の社会的責任を考察させ、経済的な視点から現代社会の特質・動向・課題を理解する。</li> <li>・現代の日本経済の動向について理解を深め、日本経済の国際化を初めとする経済生活の変化、現代経済について理解する。</li> </ul>
三学期	現代社会の諸課題	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の諸課題（地方自治と少子高齢化社会）</li> <li>・国際関係の諸課題（国際貢献）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の地域社会が抱える課題と国際協力の必要性について理解し、国際社会における日本の果たすべき役割について考える。</li> </ul>

4 学習方法と生徒への注意

・皆さんに自分の考えで主体的に行動できる大人になってほしいと願っています。そのために世の中で起きている問題について関心、疑問を持ち、自分の問題として捉え、自分の考えを表現できるようにしましょう。

5 評価の観点・方法

観点 授業に積極的に参加し、自らの意見をしっかりと持ち、表現することができるか。  
 評価 ①確認テスト ②プリント提出、③レポート提出、④発表 ⑤授業への取り組みなど

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
		○	○						○

令和2年度 年間授業計画 東京都立蒲田高等学校

教科・科目	地理歴史・世界史A 必修選択A/B	2単位	対象学年・組	3学年 1～6組
教科書	帝国書院 世界史A	教科担任	望月	

1 目 標

- ・世界史に関する関心を高め、意欲的に学習に取り組むようになる
- ・世界史に関する基礎的な事項を系統的に理解することができる。
- ・世界史の学習を通して、考え方の多様性や違いを包容する心を身につける。

2 学習の到達目標

- ・16世紀の世界システム完成から西欧各国の近代化までの流れを大まかに理解する。
- ・時代や社会の動き・地理的条件が各国の近代化にどのような影響を与えるのかを理解する。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	・ロシアの改革と東方問題	18	・近代化を進めるために南下政策を唯一の解決策としてきたことを理解する。また、我国の歴史への影響を理解する一助とする。	・地理的要因が理解度に大きく影響するところでもあり、ICT機器など使用することで常に地図を参照にできるようにする。
二学期	・アジア諸国の同様 ・東アジアの大変動 ・第一次世界大戦	32	・帝国主義によってアジア各国が受けた「ウエスタン・インパクト」を理解し、我が国、またはアジア各国の対処法を理解する。	・各国の写真や資料など使い、帝国主義的支配を受けることでアジアがどう変貌したのか具体的にイメージさせる。
三学期	・世界恐慌とローズヴェルト ・ファシズムの台頭	20	・世界的な不況がどのように起こったのか、さらに具体的な経済政策について各国の対応を理解する。	・個々の政策が有効かどうかを考えさせるためには具体的に写真や資料をみせたい。またその後になぜ第二次世界大戦につながったのか、ヨーロッパ諸国の具体的な政策例示を当時の政治家の日記などの史料から具体的に読み解かせたい。

4 学習方法と生徒への注意

- ・生徒との問答のなかで答えを導き出せるような指導を行いたい。
- ・調べ方・表現方法次第で読み手の理解や関心がどう深まるかを生徒自身が主体的に考えるような課題を貸す予定である。
- ・授業の受け方一つひとつが社会での態度形成への第一歩であると捉え、授業規律の確立に努めたい。

5 評価の観点・方法

確認テストのほかに授業中の態度や提出物など様々な観点から総合的に評価する。(人に伝わる表現力……ノート・レポート提出など、授業で出された課題を解き明かそうとする主体的な態度……出席・授業態度など、自ら考えて資料を活用して調べようとする力……課題レポートなど。)

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
---------	-------	---------	-----------	-------	-----	-------	-----	-------	----------

○		○	○	○	○				○
---	--	---	---	---	---	--	--	--	---

令和2年度 年間授業計画 都立蒲田高等学校

教科・科目	日本史A 選択	2単位	対象学年・組	3学年
教科書	日本史A 人・くらし・未来 (第一学習社)	教科担任	山本	

1. 目標

古代からの日本の歴史の展開を世界の歴史と関連付けて理解させ、歴史的思考力を培い、国際社会にも対応できる能力を身につける。

2. 学習の到達目標

古代からの日本の歴史を国際環境と関連付けて大観することができる。また歴史から自分の未来について考えようとすることができる。

3. 学習内容と学習上の留意点

期	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
一学期	日本の成り立ち、 古代の日本	18	旧石器文化、縄文文化、弥生文化、古墳文化、飛鳥時代、奈良時代、天平文化、摂関政治、国風文化、武士の発生、院政	<ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の大きな特徴を大まかに把握させる。</li> <li>ビデオや資料集を活用し、視覚的にも理解を深めさせる。</li> </ul>
二学期	中世の日本 近世の日本	32	鎌倉幕府、鎌倉文化 南北朝時代、室町幕府、北山・東山文化、戦国時代の幕あけ、織豊政権	<ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の大きな特徴を大まかに把握させる。</li> <li>ビデオや資料集を活用し、視覚的にも理解を深めさせる。</li> </ul>
三学期	近世の日本	20	江戸幕府、元禄文化、封建制の動揺、化政文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>各時代の大きな特徴を大まかに把握させる。</li> <li>ビデオや資料集を活用し、視覚的にも理解を深めさせる。</li> </ul>

4. 学習方法と生徒への注意

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業は講義形式を原則とするが、必要に応じて視聴覚機器などを活用する。</li> <li>2. 教科書、副教材、ノートなどは毎時間必ず持参する。</li> <li>3. 授業中は授業に集中し講義を真剣に受ける。</li> </ol>
---

5. 評価の観点・方法

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 確認テスト</li> <li>2. ノートやプリントの提出</li> <li>3. 授業への参加状況、出席状況</li> </ol>
--

6. カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○							

令和2年度 年間授業計画 東京都立蒲田高等学校

教科・科目	必修選択 地理A	2単位	対象学年・組	3学年
教科書	東京書籍 地理A	教科担任	目崎	

1 目 標

- ・基本的な地理知識を知るとともに、わが国の地域的特色について理解する。
- ・世界の人々の生活と文化を知るとともに、国際理解の基礎知識を学ぶ。

2 学習の到達目標

- ・作図作業を通し身近な地域の自然環境を知る。
- ・日本及び世界のおもな国や都市の名称と位置を地図で理解する。
- ・世界の自然環境や産業、地域が抱える諸問題を把握する。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一学期	球面上の世界 世界の自然環境 日本の地域特性	18	地球の進化を時系列で理解する。 世界とわが国の地形や気候などの自然環境の特徴を理解する。	講義や教科書の文章説明だけでなく、地図帳を見る、教科書の写真を見る、DVD視聴する、白地図作業を行うなど多角的に展開する。
二学期	世界の諸地域の生活と文化	32	地域ごとの文化の多様性を理解し、異文化交流について考える。	講義や教科書の文章説明だけでなく、地図帳を見る、教科書の写真を見る、DVD視聴する、白地図作業を行うなど多角的に展開する。
三学期	世界の環境問題	20	世界とわが国の抱える様々な環境問題を理解する。 21世紀の地球的課題を知る。	講義や教科書の文章説明だけでなく、地図帳を見る、教科書の写真を見る、DVD視聴する、白地図作業を行うなど多角的に展開する。

4 学習方法と生徒への注意

- ・教材は教科書「地理A」（東京書籍）及び地図帳「地歴高等地図」（帝国書院）を使用する。
- ・授業は基本的に講義形式で行うが、必要に応じてDVDやICT機器など視聴覚教材を利用する。
- ・日々の授業の確認や、中学時の復習も兼ねて小テストを数回行う。
- ・生徒は講義に集中し、講義を静聴すると共に必要に応じてノートへの記入、その他作業を行う。

5 評価の観点・方法

- ・確認テストや日々のプリントの提出状況などから総合的に評価する。
- ・授業中の態度について、積極的な発言などは評価する。

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○							○

令和2年度 年間授業計画

東京都立蒲田高等学校

教科・科目	自由選択科目 社会基礎	2単位	対象学年・組	3学年・自由選択
教科書	「政治・経済」に準ずる	教科担任	浅川	

1 目 標

- ・基礎基本の社会的知識を学び、現代に生きる自分自身を取り巻く問題について考える。

2 学習の到達目標

- ・倫理・現代社会・地理・歴史についての復習を行い、知識の確認と理解を目指す。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点	
一 学 期	前 半	倫理・現代社会分野	10	環境・資源・エネルギー問題 人類の特質・青年期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材を使いながらワークシート活用、質問による基礎力の確認を行う。</li> <li>・新聞などを利用しグループワークなども行う。</li> <li>・視聴覚教材を使いワークシート等を活用して基礎知識の定着・確認を行う。</li> <li>・視聴覚教材・新聞などを活用し、質問やグループワークを行う。</li> <li>・発表したことを評価する。</li> </ul>
	後 半	倫理・現代社会・分野	8	生命・情報倫理 国際理解	
二 学 期	前 半	地理・歴史分野	16	国際社会や基本的な歴史の流れについて学ぶ	
	後 半	公民的分野	16	倫理や政治経済の補充的な内容を行う。	
三 学 期	調べ学習と発表		20	自分の興味関心を持った題材を調べる。	

4 学習方法と生徒への注意

- ・ 質問を行い、自分で考える景気とする。
- ・ ノート・ワークシートの提出を行う。

5 評価の観点・方法

観点 常識的で基礎的な事柄を理解しているか、提出物・小テストで確認する。

評価 ノート・ワークシート提出 講義内容等の記述  
小テスト 講義内容の理解  
授業態度 出欠状況、基本的マナー

6 カリキュラムマップ

多文化・異文化	数学的技能	思考力・判断力	課題発見力・解決力	生涯学習力	表現力	技能技術力	読解力	鑑賞する力	資料活用する技能
○		○	○	○	○		○		○